

会 議 録

会 議 の 名 称	弘前市スポーツ推進審議会委員委嘱状交付式及び令和 2 年度第 1 回弘前市スポーツ推進審議会
開 催 年 月 日	令和 2 年 11 月 11 日 (水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後 3 時 00 分から午後 4 時 10 分まで
開 催 場 所	弘前消防本部 3 階「大会議室」
出 席 者	会長 水木 厚美 委員 福田 由理子、小山内 修、木村 宏、渡邊 智、 鹿内 葵、小山内 剛、福眞 猛
事務局職員の 職 氏 名	健康こども部 部長 三浦 直美 健康こども部スポーツ振興課 課長 石澤 淳一 補佐 若松 義人 スポーツ振興係長 奈良岡 隆介 スポーツ振興係総括主査 境 麻紀
会 議 の 議 題	議題 1 弘前市スポーツ推進審議会及びスポーツ振興課業務の概 要について 議題 2 令和 3 年度補助金交付計画について【諮問案件】 議題 3 その他
会 議 結 果	事務局案で委員の承認を得る
会議資料の名称	(資料 1-1) 弘前市スポーツ推進審議会について (概要) (資料 1-2) 弘前市スポーツ推進審議会に関する条例 (資料 1-3) 弘前市スポーツ推進審議会委員名簿 (資料 1-4) 弘前市総合計画抜粋「当市のスポーツ活動の振興」 (資料 1-5) 令和 2 年度教育年報抜粋「当市の体育施設概要等」 (資料 1-6) 弘前市スポーツ推進計画 (概要) (資料 1-7) 弘前市スポーツ推進計画 (資料 1-8) 弘前市スポーツ賞表彰規則 (資料 1-9) 弘前市スポーツ賞表彰事務取扱要項 (資料 2) 令和 3 年度補助金交付計画について (資料 3) 令和 2 年度弘前市スポーツ推進審議会の日程につい て
その他の事項	会議は公開

(会議内容)

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 組織会
正副会長の選任について
5. 諮問書提出
6. 案件
7. 閉会

《 1. 開会 》

【司会】

本日は、お忙しいところお集りいただきましてありがとうございます。

定刻前ではございますけれども、皆さんお揃いのようなので、只今から「弘前市スポーツ推進審議会委員委嘱状交付式及び令和2年度第1回弘前市スポーツ推進審議会」を開催いたします。

《 2. 委嘱状交付 》

【司会】

それでは初めに、市長より委嘱状の交付を行います。

皆様のご紹介を兼ねまして、お名前を読み上げますので、呼ばれましたらその場でご起立のうえ、委嘱状をお取りいただければと思います。

委嘱状をお受け取りになりましたら、ご着席ください。

それでは、お名前を申し上げます。

※事務局より各委員の名前を読み上げ、市長より委嘱状を交付

《 3. 市長挨拶 》

【司会】

続きまして、市長から挨拶を頂戴いたします。

(市長挨拶後、別の公務のため退席)

(任期最初の会合のため、市の関係職員が自己紹介)

《 4. 組織会 》

【司会】

続きまして、これより組織会に移らせていただきます。

まず初めに会長を選任していただきます。

会長選任の議事進行のために、仮議長を選任したいと思いますが、こちらの事務局案といたしましては、長年、当審議会の委員を務めておられます水木委員に仮議長をお願いしたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

(委員から異議なしとの声あり)

【司会】

ありがとうございます。

ご異議がないようですので、仮議長は水木委員をお願いしたいと思います。

水木委員はお手数ですが、こちらの方に来ていただいてよろしいでしょうか。

それでは水木委員、議事の進行をお願いしたいと思います。

【仮議長】

それでは、仮議長として、議長が就任されるまで議事を進めてまいりたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは、会長を選任したいと思います。

弘前市スポーツ推進審議会に関する条例第5条第2項の規定により、会長及び副会長は、委員の互選によって定めることとなっております。

まず、会長について、どなたか立候補又はご推薦等ございましたら、お願いいたします。

【委員】

水木委員が適任だと思いますので、引き続きまた、水木先生にお願いできればと思います。

(委員から異議なしとの声あり)

【仮議長】

ありがとうございます。

私、水木を推薦するというご意見がございましたが、いかがでしょうか。

(委員から異議なしとの声あり)

【仮議長】

それでは、ご異議がないようでございますので、大変僭越ではございますが、私が会長を務めさせていただきたいと思えます。

よろしく願いたします。

【司会】

水木委員、会長を務めていただきまして、ありがとうございました。

弘前市スポーツ推進審議会に関する条例の第6条第1項の規定では、会長が議長を務めることとしておりますので、水木会長には引き続き議事の進行をお願いしたいと思います。よろしく願いたします。

【議長】

それでは、早速ではございますけれども、議事を進めてまいりたいと思えます。

まず、会長に続き、副会長を選任したいと思えますが、どなたか立候補又はご推薦はございませんでしょうか。

【委員】

立候補、推薦はないようですので、会長一任ということでいかがでしょうか。

【議長】

只今、会長である私に一任という意見がありましたが、皆さん、いかがでしょうか。

(委員から異議なしとの声あり)

【議長】

ありがとうございます。

それでは、意義がないようでございますので、私より副会長を、小山内修委員にお願いしたいと思います。

小山内修委員、副会長をお引き受けいただけますでしょうか。

(小山内修委員了承)

【議長】

ありがとうございます。

それでは、会長及び副会長が決定いたしましたので、只今を持ちまして、組織会を終了させていただきます。

≪ 5. 諮問書提出 ≫

【司会】

続きまして、諮問書の提出に入らせていただきます。

本来であれば、市長から提出するところでございますけれども、別の公務のため退席いたしましたので、本日は代理で、健康こども部長の三浦から、会長へ諮問書を提出させていただきますと思います。

(健康こども部長から水木会長へ諮問書提出)

≪ 6. 案件 ≫

○議題1 弘前市スポーツ推進審議会及びスポーツ振興課業務の概要について

【司会】

それでは、引き続き、会議の方を進めてまいります。

進行は会長ですので、水木会長、よろしくお願いいたします。

【議長】

それでは、引き続きまして、会議を進めてまいります。

只今の出席委員は8名で、定足数に達しておりますので、次第に沿って進めてまいりますと思います。

まず初めに、「議題1 弘前市スポーツ推進審議会及びスポーツ振興課の業務の概要について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局より、資料1-1を説明。資料1-2から資料1-9については、概要のみ説明)

【議長】

ありがとうございました。

只今の説明に、ご意見、ご質問ありますでしょうか。

【委員】

施設の利用について書かれている資料の117ページの「スポーツ教室等開催状況」ですが、こちらはスポーツ指導員の方の事業のみで、指定管理者の自主事業は入っていない

いのでしょうか。

【スポーツ振興係長】

委員がおっしゃったとおり、市が体育施設に配置しておりますスポーツ指導員のスポーツ教室の実績となっております。

【委員】

すごい数ですね。年々増えている感じがします。

【スポーツ振興係長】

その年によって、気温とか、いろいろなものが関係すると教室数は前後するのですけれども、横ばいですね。だいたい1,000件から1,500件の間で推移しております。

【議長】

他にございませんでしょうか。

(委員より他に意見なし)

○議題2 令和3年度補助金交付計画について【諮問案件】

【議長】

それでは、ご意見がないようですので、議題2の「令和3年度補助金交付計画」に入りたいと思います。

これは、弘前市がスポーツ団体等へ来年度に交付を予定している補助金に対し、皆様に補助金の趣旨や目的等を審議いただくものであります。

それでは、この計画内容について、事務局から説明をお願いします。

(事務局より資料2を説明)

【議長】

只今、令和3年度の補助金交付計画について説明がありましたが、只今の説明に対してご質問、ご意見等を求めます。

【委員】

毎年聞いているのですけれども、岩木スキークラブに対するスキーの補助金なのですが、他にもスキークラブがたくさんあるのに、なぜ岩木スキークラブなのかなど。

あとは一輪車とか、剣道大会とか相撲とかもあるので、他の種目でも、例えば弘前で東北大会とか全国大会がある場合があると思うので、なぜこの団体に補助金を出しているのかという理由があると思うので、例えば申請制にして、今年、東北大会とか全国大会とかがあるかどうかを各競技団体に聞いて、申請して補助金を貰うといった枠組みの方が断然いいのではないかな、と私は思うのですけれども。前回もたぶん、そう言っているのですけれども。

例えば、一輪車は、弘前でやっている団体さんなのですか。

【スポーツ振興係長】

そうです。一輪車は豊田児童センターで活動しております豊田児童クラブという所が、コンペティション実行委員会の事務局になっておりまして、そちらに補助金を交付しております。

【委員】

補助金を公平に出せる仕組みづくりが大事なかなと思うのですが。そういうことを考えてもいいのではないかなと思っています。

【スポーツ振興係長】

委員からは、昨年とその前から、また、会議の場以外でもそのようなお話を伺っておりました。

スキークラブさんとかも、弘前市が合併する以前から、冬のウインタースポーツの活性化ということで要望があったと思うのですが、今、こうして一覧表にしてみると、それぞれバラバラな団体に補助されており、この中に出てこない団体もあるでしょうし、公平性の点でどうかという点が一つの課題としてあるということは、こちらでも認識しております。

こちらとしましては、今までやってきた団体さんには、それぞれの経緯がありまして、それぞれ市で交付する目的や効果が、市の目指す方向性、施策と一致するということで補助金を交付しておりますが、今後もずっとこのままということではなく、少なくとも今、こういう場で選ばれた審議会の委員の皆様にご意見をいただいて、金額とか目的などの妥当性を審議していただきながら、鹿内委員から今お話しがありましたけれども、予算額という大枠では、今この表にもありますが、だいたい3千6百万円で動いていますので、もし、新たな団体から提案があった場合は、審議会の場に諮ることも当然ですし、今後、どのような形でどのような団体に振り分けていくのが公平なのかどうかというところを、こちらでも少し研究して、いろんな団体さんから、これまで補助金を貰ってきている団体、これから受けたい団体に不満が残らないような、公平性をもった制度について、研究させていただきたいと思えます。

少なくとも、審議会のこういう場では、しっかりこちらから説明して、金額等の増減も含めてご意見いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【委員】

市として、例えばはるか夢球場ができて、野球とかソフトとか、弘前はこのスポーツをやっていくということであれば、それに連動して、その団体や競技に補助金というのもありなのかなと思います。その辺のちゃんとした理由があればいいのかな、と思います。

あと、前にも話したのですけれども、岩木、相馬、市の体協を3つ見ると、事業概要が同じことが書いているので、市の体協にまとめて出してもいいのではないかなと思ったりするのですけれども。

実際、岩木体協と相馬体協は、何をやって予算がついているのですか。

【スポーツ振興係長】

一覧表の6番と7番と8番の事ですね。

岩木地区でも相馬地区でも実施しているものは、8番の弘前市体育協会が実施しているものと同じように、地区で行われるスポーツ大会を実施するための補助金や、それを支援するための補助金、それから、その地区のスポーツ団体の運営に関する補助金になります。中身はほぼ一緒です。

委員がおっしゃることは、昨年もご意見をちょうだいしておりましたけれども、弘前市と岩木町、相馬村が合併した当初のまま引き続けている状況であります。

合併して10年が過ぎましたので、6番と7番と8番の今後の持って行き方というのは、一本にした方がいいのか、それとも岩木地区は岩木地区でやった方がいいのか、相馬地区は相馬地区でやった方がいいのか、というところも、実は内々に体育協会さんや岩木地区の体育協会さん、相馬地区の体育協会さんと話をしております。

ただ、合併して5年で整理できるとか、10年で一緒くたという風にはいなくて、それぞれの地区の中で話し合いをして、使われてきた補助金という経緯がありますので、こちらから強引に一つに整理して済むという風には意見を伺っている訳ではなく、もう少し調整のための時間が必要になってくるのではないかと感じておりましたので、それでご理解いただきたいと思えます。

【委員】

これには、地区の運動会とか、市民総体とか、そういうものも入っているのですよね。

【スポーツ振興係長】

入っています。

【委員】

あともう一つ、スポレク祭のことです。

これも毎年話をしていることなんですけれども、最初にやった時は、toto の助成金を引っ張ってきて、いろいろ活発にやってきたと思うのですけれども、競技団体にこだわらず、体育の日に一般の方が楽しめるような感じでやってきたとっていたのですが、実行委員会がもう解散してしまって、各施設とか団体に補助金を配るだけになり、一貫したスポレク祭をこうやって盛り上げようということがないまま、ただやっています。

これだと昔の前身のスポーツ・レクリエーション祭のように、各団体に補助金を配って終わりという感じになってしまっているのもう一回それを見直してもいいのではないかと思います。

それから、これは体育の日にやっておりましたが、今は体育の日が無くなってしまい、スポーツの日になってしまって、7月の下旬とかになっているので、その辺も日程とかをどうするか検討が必要なのかなと。

自分も、これをいいイベントにしていきたいなと思っているので、ただ配らないで、実行委員会をもう一回作り、皆で意見を出し合って、一つのまとまった方向で実施していただければなと思います。

【健康こども部長】

スポレク祭というのは、確かに最初の頃、どうやって皆さんに、スポーツ・レクリエーションに親しんでもらおうかということで、今、委員がおっしゃったように、広くそういう形の場を設けておりました。

その後、各種団体さんの普及・啓発のため、それぞれの団体さんの会員を増やし、その種目をいかに広めていくかということも、開催の目的の一つとしておりました。

それが10年続いた「第10回大会」で、各競技団体さんのスポレク祭での役割が概ね見えてきたということもあり、「弘前市」として大きく実行委員会形式でスポレク祭をやらなくても、各競技団体で、教室や大会などをその時期に広めていってもらえればいいのではないかと、というのが実行委員会を解散した理由の一つでもあります。

体育の日に関して言えば、以前は10月10日と決められていたのが、最近では10月の第2週の月曜日になっておりますね。

先ほど7月というお話がありましたが、今年はオリンピック・パラリンピックの開催の日に合わせて、敢えてその日を祝日にしたというのが実情であり、たぶん来年の暦では、政府が方針を変えない限り、例年どおりの10月の第2週の月曜日に戻っているのではないかと思います。

そういった中で、スポーツ振興課では、児童のスポーツ環境の整備であったり、児童だけではなく、いろんな方々にスポーツに親しんでもらう機会というものを、いろいろな形で創出していかなければいけないと思っています。

子どもたちに関して言えば、スポーツ環境がなかなか寂しくなっています。スポーツ少年団に入ることができない子もいれば、競技が団体で組めないくらいの人まで落ちている所もあります。

スポーツは楽しいものだとすることを少しでも知ってもらいたいがために、スポーツ環境整備事業というものを、児童向けにやっています。

じゃあ、大人はどうかというと、実は大人たちもなかなかスポーツができていないのですよね。

スポーツに参加する機会を増やすということで、例えばアップルマラソンやツデーマーチなどの事業を実施しています。

スポレク祭も、スポーツに参加する機会を増やしていくという意味で実施している事業の一つなのですが、大人の方たちが、体を動かすことはこんなに楽しいのだということを実感してもらうためには、第10回大会が終わった後、もう数年たっているわけですから、それをもう一回検証する必要があるだろうと思います。

スポーツ推進計画の中にも、スポレク祭のことを若干入れ込んでおりますので、これから計画をしっかりと検証していく中で、委員の皆様からもご意見をいただき、どういう形をとることで今後の弘前市のスポーツ振興につながっていくのかを考えながら進めていきたいと思っています。

【議長】

ありがとうございます。

他に、どなたかございませんでしょうか。

【委員】

一覧表の備考欄を見ると、いくつかの大会が、コロナの感染拡大防止により中止となっておりますが、2月や3月の大会で同じように中止になった場合、補助金を全額支給するのか、あるいは、大会がないからゼロにしてしまうのか、もしくは必要経費がかかっていると思うので、それに見合った額を補助するのかどうかを教えてください。

【スポーツ振興係長】

今年の2月の末から、新型コロナウイルスが全国で感染拡大いたしまして、弘前の方でも、スキー大会とか、途中まで事業を実施し、準備や周知もしてきたのに、突然、中止になった大会等がいくつかあります。

コロナウイルスでの中止は、急な感染拡大状況により中止に追い込まれてしまうというところがありますので、それまでかかった費用、補助事業のために必要と認められた経費については、補助金の範囲内で必要経費として補助しておりました。

【議長】

ありがとうございます。

他にございましたら、どうぞ。

【委員】

大会等が中止になった場合は、補助金の範囲内で支払うという話だったと思います。

スキーなんかは、おそらく当日使う会場費が、圧倒的に金額を占めると思います。これは、けっこう、何の団体・競技であっても、使用料であれば、体育館とかグラウンドとか、スキー場であつたら猶更だと思うのですけれども、それが支出の半分とかそれを超えるぐらいのパーセンテージになるかと思うのですけれども、そのあたりについてはどういった形だったのでしょうか。全額補助という形にはならないのかなと。

【スポーツ振興係長】

中止になった事業ですけれども、体育館とか体育施設の会場使用料については、市の方針として、コロナウイルスの感染拡大防止を理由としたものは、会場使用料を還付するという対応としておりまして、実際は使用料を払わなくてもいいというのがほとんどです。

なので、事業のために必要な準備として、備品や消耗品や広報費などが、かかった経費としては多かったというのが実際のところだと思います。

【議長】

ありがとうございます。

他にもありましたら、どうぞ。

【委員】

別の委員がおっしゃっていたことと、ちょっと同じような話になってしまうのですけれども、スキークラブさんや剣道さんとか、相撲競技さんとかという形で補助しているものもありますが、No.で言えば9番、10番、特に17番のあたりを見ると、補助事業者がスポーツ少年団に特化している形になっております。

例えば、12番のように各種スポーツ団体へという形だと、何か不具合があるのでしょうか。

スポーツ少年団にならないような小さな、失礼ですけれどもマイナー競技というか、ゴルフとかフェンシングとか、私が携わっているボクシングもそうなんですけれども、そういう所は対象にならないのかな、という印象を受けました。

スポーツ少年団になるということ、ある程度の人数が必要になるので、必然的に野球とかバレーとか団体競技は入りやすいのですけれども、ゴルフやボクシングのように個人

競技になるとそんなに何十人も少年団に登録するような人数で活動するのは、非常にまれだと思います。

その辺は、何か変えようというか、どうしてスポーツ少年団に限定されているのかなど。何もわからなくて申し訳ないのですけれども、教えていただければと思います。

【スポーツ振興係長】

スポーツ少年団の方ですが、市内の小学校が10年以上前から、それまで小学校で行われていた部活動という、放課後にスポーツをする仕組みというのがかなり変化しまして、教員さんが部活動でやらなくなりました。

小学生が今、委員がおっしゃったとおり、活動する団体競技の多くは、団体とはいえ、個人競技がダメということではないのですけれども、スポーツ少年団に加盟して、1,000人を超える児童がいたのですけれども、登録して活動しているというのが、弘前の小学生の放課後活動の大きな部分だったという実態があります。

それで、スポーツ少年団さんは、スポーツ省さんが示しておりますガイドラインをしっかりと踏まえた活動をしています。

指導者の方への講習会とか、必要な指導とか、ルール、この辺を守って活動するところが登録してやっていただけということでしたので、まずは児童の放課後の健全育成、スポーツを通じた健全育成のために弘前市スポーツ少年団さんをメインに支援してきた、というところになります。

補助金も、運営に充てられる部分もございますし、指導者や児童の登録に対する補助、それからスポーツ少年団で指導を行っていただく方への支援、こういったものに補助金を充ててきたというのが、今までの流れです。

やはり、今、委員がおっしゃられたように、団体競技であれば、スポーツ少年団がやりやすいのかもしれないのですけれども、個人競技になったときに、ゴルフ、フェンシング、ボクシング等ですね、競技人口も、もしかすると割合でいくとそれほど多くはないのかもしれませんが、そういったニーズに応える補助金というのが確かにこの中には見受けられないというところもあります。

ただ、12番については、こちらの方はスポーツ少年団等に関係なく、大会に出場する方々に旅費として、主な交通費や宿泊費を支援しております、こちらの方をご活用いただくことで、個人競技の方々に支援してきているというところがあります。

スポーツ少年団さんは、団に登録するためには、ルールも守らなくてはならないし、必要な経費というのは保護者さん、子どもの保護者さんたちになるのでしょうか、ある程度、経済的な負担が発生する部分もありましたので、それを支援してきましたが、今後、個人競技をやられる方々から、今、委員がおっしゃるような何かしらニーズが出てくるようでしたら、事務局でも状況を確認したうえで、考えていかなければいけないのではないかと感じております。

【議長】

ありがとうございました。

はい、どうぞ。

【委員】

スポーツ少年団関係の予算が2件、減っているのだけれども、やはり前と違って、人数は相当減っているものですか。登録者数とか。団体数とか。

【スポーツ振興係長】

9番は、まさにその、少年団の登録員に対して充てられる補助金になるのですが、少子化の影響ももちろんありますし、もしかすると、スポーツ少年団だけではないスポーツ活動というのが、実は市内で少しずつ活性化してきているのかもしれないです。

先ほどの委員がおっしゃったような個人競技をやっているのかもしれませんが、全体としては登録人数が減っているというのが減額の理由です。

17番の指導者講習会の方は、これまで数年、市の方で50万円の予算で、かなり背伸びをした講師を関東方面からお呼びしておりました。その指導者の方は、それを専門の職業としている方ですとか、その道ではかなり高名な方々をお呼びしてきて、それはそれでいい講演だったと私も思っておりますし、ただ、それを数年続けてきたのですが、実は地元の方にも、分野分野でいい講師の方がいるということ市でも把握してきましたので、今度は地元の方を先生と呼びながら、地元の事情にすごく精通した先生方なので、そういう方々の指導者講習会をやりたいなということでスポーツ少年団さんとも話をしまして、減額ということで対応させていただきました。

【議長】

ありがとうございます。

他にございませんか。

【委員】

要望ですけれども、ブランデューがこないだ残念だったですけれども、やはり地元でプロを目指すということになると、市としても応援していける体制とかが、もっとあってもいいのではないかなと思います。

ブランデューもただ勝つためだけでなく、弘前を盛り上げようという形でやっていると思うので、そういうところへの支援とか何か。

スポーツ推進計画の中にも入っているので、プロスポーツを応援しようというのが、何らかの形になっていけばいいなというのが要望です。

【スポーツ振興係長】

要望として承りました。

【議長】

皆さん、他に何かございますか。

【健康こども部長】

先ほど二人の委員の方々から少しお話がありました、補助金の交付についてです。

取り扱い方法として、確かに申請というやり方もあるかと思いますが、そういった場合に、これから委員の皆さんに話をさせていただきたいのは、どういった形での申請の仕方や、交付の決定の仕方がいいのか、我々事務局の方でも案は示したいと思うのですが、ただ、やみくもにそれを出すのではなく、やはり委員の方々からの意見を聴取しながら、それをしっかりとした形にして、計画としてお示しした方が宜しいのかなと思います。

スポーツとは別ですが、市では「1%システム」というものがあります。

こちらであると、一定の基準額以上の場合については、プレゼンをしていただいて、それで合否を決定するという形をとっております。

こちらの形でスポーツも実施するとなると、おそらく相当の煩雑さというのが出てくると思います。

各団体がどれぐらい市内にあるのかということも、ちょっと把握しきれていないという事実もあります。

なので、それを書類選考の形でやるにしても、ある程度、基準というのを設けなければいけないといったことも出てきますので、こちら辺に関しては来年度に向けて、これからも継続的に話し合いをさせていただければと思っております。

公明正大に、そして公平にという風にやったときに、それがあまりにもやりすぎてしまうと、事務局がはばけてしまうと思います。

ある一定のところでの基準を設けないと、やはり難しいのかなということもありますので、今後、継続審議という形でお話させていただきたいと思っております。

それと、あともう一つ、今、事務局の方から話しました「補助金交付計画」は、あくまでも予算の見積額ということで、予算が確定しているものではありません。

議会で審議・承認していただいたうえで、来年度決定されるものですので、あくまでも予定している額ということです。まだ査定も受けておりませんので、今のところはあくまでも見積額ということでご理解いただければと思います。

【委員】

去年、おととし、「障がい者スポーツの支援活動事業補助金」を受けさせていただいて、すごくいいな—と思ったのですけれども、こういうふうに枠を作っておいて、い

ろんな所が使えるような形で、例えば全国大会とか東北大会とかをそういう風なやり方でいければいいのかなと思います。

【議長】

ありがとうございます。

そろそろご意見が出つくされたと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員より意見なし)

【議長】

それでは、ご意見がないようですので、令和3年度の補助金交付計画について、お尋ねします。ご異議ございませんか？

(委員より、異議なしとの声あり)

【議長】

それでは、皆さんからの貴重なご意見や要望、あるいは事務局からの丁寧なご説明をいただいて、全体的に皆さんの総意を得られたものと思いますので、皆様からのご意見を補足のうえ、市長に建議していただきたいと思います。

○議題3 その他

【議長】

それでは最後に、議題3「その他」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局より、資料3を説明)

【議長】

只今の説明についての、ご質問・ご意見ありませんか。

特にないようですので、これもちまして…

【委員】

「その他」で一つ…

【議長】

「その他」については、まとめて最後にもあります。

議題については、一度閉めた方がいいのではないのでしょうか。これまでの議題に対する質問はないものとして閉会して、事務局へお返しします。

今までのところ、ご協力ありがとうございました。

【司会】

水木会長、会議の振興、ありがとうございました。

最後に、全体を通してご意見・ご質問があればどうぞ。

【委員】

もう情報が流れていると思いますけれども、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革を国が出していて、令和5年から土日に、学校部活が民間委託という形になるということで、スポーツ庁や文科省の方からもいろいろと出ているので、市としても今日はここに中学校の先生がいないですけれども、部活がなくなっていく方向にどんどんなっていくと思うので、その受け皿作りとか、こうなると教育委員会やスポーツ振興課と、どちらが音頭をとってやっていくのかということもあると思うのですけれども、その辺も今度は考えてやっていかないと大変になってくるのではないかなと思うので、その辺を踏まえて今後のスポーツ施策を検討していただければなというのがあります。最後に要望です。

【健康こども部長】

中学校は民間の指導者に、ということにこれからなるでしょうし、スポーツ少年団の方面でも、団長を始め、指導者への指導、育成ということが大事になってくると思います。

経験則だけではなく、やっぱり、スポーツは楽しくないと向上心も生まれてこないですよ。ただスポ根でやっていいのかというと、そういうものでもない。よくあるのは、燃え尽き症候群になってしまって、逆に今までやっていた競技が嫌いになって別の競技に移ったり、もしくはスポーツ自体を止めてしまうという事態も出てきています。

我々としては、やはり子どもたちが主役であって、子どもたちにどういう形で、スポーツをこれから先も生涯を通じて楽しんでいけるのかということ、しっかりと伝えていくことが必要になります。

令和5年度に、中学校の部活動が民間へ移行になるということがあるとしても、それぞれ大人が果たすべき役割は大きいと思います。言い方をちょっと変えれば、スポーツをするための居場所づくり、そういうところをしっかりと作ってあげたい。

体罰は決していいものではないし、それをしっかりと指導者や保護者が一体となって取り組んでいかないといけない。そのための仕組みづくりを、今の段階からしっかりと考えていかなければいけないと思います。

まだあと何年かあるとしても、すぐにあっという間に訪れてしまうので、教育委員会

ともしっかりと話をしながら、また、地域のスポーツ団体さんであったりとか、そういう所と受け皿を整えてあげないと、子供たちが迷ってしまいますので、そういうことがないようにしていきたいと思います。

その際には、いろんな立場から委員の皆さんがいらしておりますので、その声をしっかりとこちらも受け止め、共有しながら、そういう受け皿づくりを見据えていかなければいけないと思っております。

ご協力をよろしくお願いいたします。

【司会】

ありがとうございます。

他に何かございますか。

(委員より意見なし)

《 7. 閉会 》

【司会】

それでは、特にございませんので、これもちまして弘前市スポーツ推進審議会委員委嘱状交付式と令和2年度第1回弘前市スポーツ推進審議会を終了いたします。

皆さん、長時間にわたってご協力いただきまして、ありがとうございました